



京都府立医科大学 男女共同参画推進センター NEWSLETTER

2015.10
vol.8

「子育て応援！府民公開フォーラム」

2015年2月8日（日） 13時～16時30分
京都府立医科大学 図書館ホール・ロビー
開会挨拶：京都府立医科大学 学長 吉川 敏一
京都府知事からのメッセージ

① 子育て応援講演

座長 京都府立医科大学 小児科学教室 教授 細井 創
「小児医療・保健分野での子育て支援の推進」
国立成育医療研究センター 理事長 五十嵐 隆 氏

② パネルディスカッション

司会 京都府立医科大学 男女共同参画推進センター 副センター長 三沢 あき子
「子どもを安心して産み育てられる京都を目指して」

- 産婦人科医の立場から 足立病院 院長 畑山 博 氏
- 小児科医の立場から 田辺中央病院 理事長 石丸 庸介 氏
- 子育て支援NPOの立場から おふいすパワーアップ 代表 丸橋 泰子 氏

開会挨拶：京都府立医科大学 男女共同参画推進センター長 矢部 千尋

● 子育て応援情報コーナー & バルーンアート

- ① 子どもを感染症から守る最新予防接種情報コーナー
【田辺中央病院 小児科】
- ② 子ども健康情報システム「ちゃいるす」体験コーナー
【京都府】
- ③ 子育てと仕事の両立応援情報コーナー
【NPOおふいすパワーアップ】
- ④ 手軽でおいしい離乳食レシピコーナー
【府立医大病院 栄養管理部・京都府保健所】



京都府立医科大学において、府民の健康を支える医師・看護師等が安心して子育てと仕事を両立できる支援に取り組んできた経緯をふまえ、京都全体に子育て支援の輪を広げることを目的として、平成27年2月8日に「子育て応援！府民公開フォーラム」を開催しました。



第1部の子育て応援講演は、日本小児科学会会長もつとめられている国立成育医療研究センター理事長の五十嵐 隆先生にお越しいただき、「小児医療・保健分野での子育て支援の推進」というタイトルでご講演をいただきました。

日本小児科学会での小児救急医療体制の確立、電話相談への協力、予防接種体制の充実、保育環境の整備、慢性疾患を持つ子どもの在宅医療支援、事故予防などの子育て支援の取り組みについてわかりやすくお話しいただきました。また、日本では、子どもや子育てに支出される予算は高齢者に比べ極めて少ない現状があり、保健・医療・福祉を包含した子どもや若年成人のための総合的社会的支援制度である「成育基本法」を成立させ、わが国における

子育てをさらに充実させることを目指している活動についてもご紹介いただきました。最後に、「小児科医は子どもの総合医で、子育て応援団です。お子さんに関することはどんなことでもかかりつけの小児科医にご相談ください」という子育て世代に大変心強い応援メッセージをいただきました。

第2部は、「子どもを安心して産み育てられる京都を目指して」をテーマとして、パネルディスカッションを行いました。足立病院の畑山 博先生には、産婦人科医の立場から、お産を経験した方々への「もう一人産みたい」と思える、母親も父親も子育てを楽しむ支援の取り組みについてお話しいただきました。田辺中央病院の石丸庸介先生からは、小児科医の立場から、京田辺市と連携した地域での子育て支援の取り組みをお話しいただきました。NPOおふいすパワーアップの丸橋泰子代表は、仕事と子育てを両立する母親の支援を行ってきた子育て支援NPOの立場から、父親の子育て参加の必要性を強調され、「母親というキャリア」のある女性人材への期待と応援メッセージでしめくられました。



当日は、学内外から120名の方々にご参加いただきました。お子さんと一緒に参加いただいた方も多く、子育て応援情報コーナーやバルーンアートも楽しんでいただく機会となりました。

最後に、本フォーラムにご参加・ご協力いただきました皆様方に、心から感謝を申し上げます。

「子育て応援！府民公開フォーラム」アンケート抜粋

- ・我が国の子育て支援の課題がわかり、参考になった。
- ・五十嵐先生の講演で、小児科医が子どもが病気になった時の治療だけでなく、広く子どもの総合的な支援、子育て支援まで意識的にやっていくという話は目からウロコで感動した。
- ・医療機関等が少子化、子育てについて真剣に考えていただいていることがよくわかった。
- ・育児支援にご理解があるパネリストばかりで嬉しく感じた一方で、育児へのかかわりの少ない男性をどうしたらよいかという疑問が残る。家庭内の問題ということで難しいかもしれないが・・・。
- ・非常によい話を聞かせてもらった。男性の役割、企業や雇用主の責任が重大であることがよくわかった。
- ・子育て支援についての現状がよくわかった。高齢化対策に比較して、子育て政策予算が低い、少子化対策を国を挙げて取り組みをしている割には光が当たっていない気がする。今回のフォーラムで専門の立場から熱い想いを具体化するための取り組みがなされていることを学び、力強く感じた。
- ・大学（医大）の強みを活かした事業を期待している。
- ・子育ての情報やサービスを受けられるように、今後もたくさんのフォーラムを開催してほしい。

「男女共同参画推進セミナー & 第81回研修医・学生のためのイブニングセミナー」

2015年6月18日（木）18時～19時
京都府立医科大学 基礎医学学舎 第2講義室

テーマ「卒後臨床研修とキャリアデザイン」

- 1 はじめに 「男女共同参画推進センターの取り組み」
伊東 恭子（京都府立医科大学男女共同参画推進センター
広報啓発WG長・分子病態病理学 教授）
- 2 「臨床医のキャリアデザイン」
外園 千恵（京都府立医科大学男女共同参画推進センター
副センター長・眼科学教室 教授）
- 3 「医師のキャリアデザインにおける子育て支援」
三沢 あき子（京都府立医科大学男女共同参画推進センター
副センター長・病児保育室副室長）
- 4 「基礎研究者のキャリアデザイン ～なぜ法医学を選択したか～」
中村 磨美（京都府立医科大学法医学教室 助教）



2015年6月18日に京都府立医科大学附属病院卒後臨床研修センター、京都府立医科大学総合医療・医学教育学教室と共催で、「卒後臨床研修とキャリアデザイン」をテーマとして、「男女共同参画推進セミナー & 第81回研修医・学生のためのイブニングセミナー」を開催し、研修医をはじめ約60名の参加を得ました。

まず、男女共同参画推進センター広報啓発WG長の伊東恭子教授（分子病態病理学）が、在宅支援、広報啓発、病児保育室、就労形態検討の4つのワーキングからなる本センターの取り組みの概要について講演を行いました。

次に、本センター副センター長の外園千恵教授（眼科学教室）が、臨床の立場から将来をどのように考えていくのか、専門医制度を中心に、大学院に行く、研究をする、開業する、勤務医になる、大学の教官になる、そしてその他として、医学部以外で教鞭をとる、行政に携わるといった選択肢もあるという講演を行いました。

そして、本センター副センター長・病児保育室副室長の三沢あき子併任講師が、病児保育のこをを中心に、医師のキャリアデザインにおける子育て支援について講演を行いました。

最後に、中村磨美助教（法医学教室）より、ご自身の経験に基づいて、なぜ基礎研究者になり、法医学を目指したかについてお話いただきました。「法医学者だけれど、飛行機の中でドクターコールがかかれば医者ですと名乗り出られる人」を目標に、臨床も経験され、その経験を活かし、臨床に還元できる研究が行われています。

なお、本セミナーの講演録は当センターHPでご覧いただくことができます。

<http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/news/articles/20150907.html>

「男女共同参画推進セミナー & イブニングセミナー」アンケート抜粋

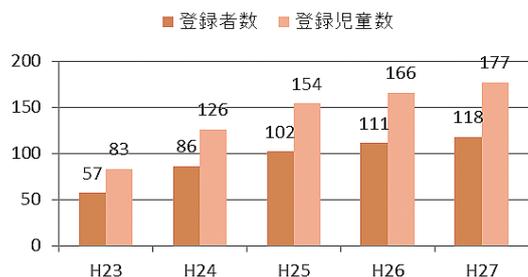
- ・男女共同参画推進センターが実際どのような活動を行っているのか、取り組みについてよくわかった。
- ・専門医制度について、制度の変化についてよくわかった。10年後の自分について考えたことがなかったので、将来について考える良いきっかけとなった。
- ・病児保育は働く子育て世代にはとても心強いサポートとなるので、本当に助かるし、今後も続けていただきたい。
- ・自分なりのキャリアプランを持つことの大切さを感じた。
- ・子育てを女性が中心として行っている現状自体はなかなか変わらないかもしれないが、いかに男性が育児に参加できるか、参加しやすくする環境を整備することが大きいように感じる。
- ・女性の先輩医師がこのような力強い建設的な取り組みをされていることを知って心強く感じた。

病児保育室「こがも」から

病児保育室「こがも」は、今年7月に、開室から満4年を迎えました。

毎年年度初めに、その年度の新規登録・継続登録をお願いしております。毎年、登録されるお子さんの半数が新規登録、半数が継続登録となっておりますが、年々、登録されるお子さんが増えています。子育てと両立しながらがんばっている医師・看護師等が府立医大で増えていることを大変うれしく思っています。最近では、病児保育室がオープンした頃に、第1子で利用されていた方が、2人目、3人目のお子さんを出産され、登録・利用いただいていることも本当にうれしいことです。

今後も、お子さんと親御さんが安心してご利用いただけるよう、利用されるお子さんの状態に対応できる無理のない体制を心がけてまいります。夜間・休日等にweb予約した場合は、速やかにお子さんの状態をEメールで送信いただきますよう、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



こがもクリスマス会（平成26年12月）

病児保育室「こがも」

URL <http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/careroom/riyou.html>

Eメール kodomo@koto.kpu-m.ac.jp、TEL/FAX 075-251-5272

（文責 小児科・三沢）

学内保育所開園のご案内



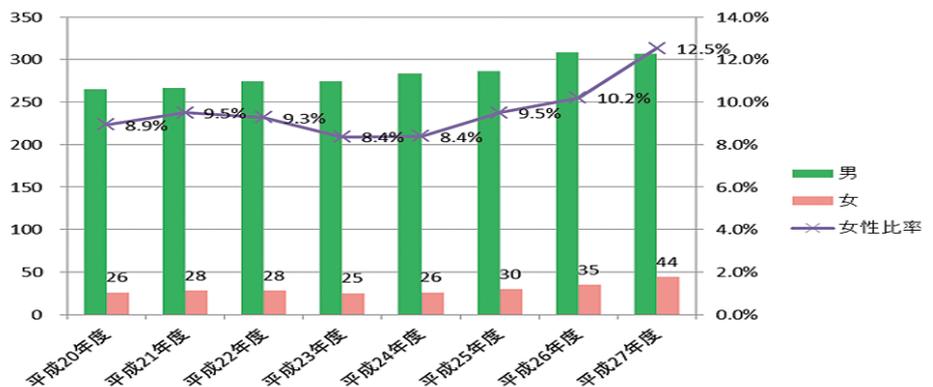
- 開所日：2015年12月10日（予定）
- 受入対象者：府立医科大学及び府立大学の教職員（有期雇用教職員含む）の子（生後57日目から3歳未満（2015年4月1日現在））
- 定員：6名
- 開所時間帯：月曜日から土曜日（祝日及び年末年始除く）
午前7時30分から午後6時30分
- 運営方法：外部委託（株式会社アイグラン）
- ※ 入所についての利用予定意向調査及び説明会を実施の上、入所者の募集を行う予定です。



問い合わせ先 総務課福利厚生担当
TEL：075-251-5212
E-mail：frk5212@koto.kpu-m.ac.jp

● 本学医学科教員における女性比率が上昇しました。

女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）の成果として、本学医学科教員における女性比率が事業開始前（平成22年度）と比べ3.2ポイント上昇いたしました。



寄附のお願い

昨年6月に本学男女共同参画推進センター寄附金の募集を開始し、皆さまにご協力をお願いいたしましたところ、平成26年度（平成26年6月～平成27年3月）には個人46名、3医学教室、および15法人の皆様から合計3,060,000円のご寄附をいただきました。誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

男女共同参画推進センターでは、今後とも、長期展望を見据えた事業計画のもと、性別にかかわらず医師および研究者等の支援を行ってまいりたいと考えております。

引き続き、皆さまのご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

寄附のお申込み、詳細については、下記HPをご覧ください。

<http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/activity/donation.html>

● 皆さまからいただいた寄附金を財源に、研究支援員雇用事業を開始し、5名が選考されました。

研究支援員雇用事業利用者の一人、視覚機能再生外科学教室 特定後期専攻医 永田真帆先生と支援員の本学医学科5回生の米田麻里さんから、本制度を利用してよかったという感想をいただきました。

永田先生：京都府立医科大学の学生で、基礎知識があるため覚えもはやく、工程をこなすだけではなく意味を考えながら実験してもらうことが出来て本当に助かった。学生にとっても、将来的に役立つ知識を学べるうえ、「どの科にいけばよいか」「大学院に進むかどうか」などの医学生としての迷いを相談する機会になり、特に結婚・出産後の女性医師として将来像の参考になったのではないと思う。

米田さん：短い期間だったが、仕事の内容も面白く、楽しく仕事することができた。また、女性医師の先生に教えていただくことで、将来の自分の姿や働き方の理想像について考えることができ、ためになった。



お知らせ

- 平成27年度 フューチャー・ステップ研究員（非常勤短時間勤務制度）が3名選考されました。
- 「女性研究者等支援相談窓口」を開設しています。ご活用ください。詳細はHPをご覧ください。

■ トリアス祭特別企画ワークショップのご案内

テーマ：「授業では絶対聞けない女性のヘルスケア

～聞きにくい月経・避妊について医療面接で聞けるようになる～

講師：中山 明子先生（音羽病院 家庭医療科/大津ファミリークリニック 家庭医）

日時：11月1日（日）13時～16時

場所：京都府立医科大学 看護学学舎2階 第5講義室（広小路キャンパス）



編集後記

今回学内外の多数の皆様からのご寄附により「子育て応援！府民公開フォーラム」を開催するとともに、2年ぶりにVol. 8の刊行が実現しました。改めてお礼申し上げます。本紙面に示すように文科省の支援事業に採択されて以来、この5年間で女性教員の比率は9.3%から12.5%に上昇しています。また当センターの運営に中心的に関わって来た伊東・外園両メンバーが本年教授に昇任いたしました。続く若い世代のために、これからも本学の環境整備に取組みますのでご支援をよろしくお願いいたします。（C.Y.）

男女共同参画推進センター

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
電話（FAX）：075-251-5165
Eメール：miyako@koto.kpu-m.ac.jp
URL：<http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel>